

新潟大学同窓会山形県支部だより

第4号

平成25年10月1日 新潟大学同窓会山形県支部事務局発行

〒990-1551 山形県西村山郡朝日町三中甲 650-1 井上幸弘

支部設立経緯・雑感

会長 志賀康芳（S43年・法卒）

山形県支部は、会津支部に続く5番目の支部として平成19年11月10日設立された。

設立のきっかけは、平成18年8月の馬場事務局長の山形への訪問である。立ち上げについて、学生時代からの友人や市役所「六華会」の代表と情報交換を行い、その中で地元同窓生の親睦状況や各職場における同窓会活動の状況など、地域に於ける繋がりや絆の現状を把握したと思われる。



実はこれより数年前、山形市役所・山形新聞・山形放送・山形銀行・山形県庁等の40～50代の同窓メンバーによる懇親会が2回ほど開催されていた。もとより、学生時代から親交のある者が多かったが、初めて会う者も数名いた。全員自己紹介のうえ懇談した。同じ校舎・キャンパスで学んだ者が地元こんなにいるのだと改めて感じた。そして、この輪をもっと広げていこうと出席者皆で話し合った。

当時、県内の本学同窓会会員は、1000名に迫る状況だった。山形県庁には、医師等を除いても全学同窓生が200名近くおり、懇親会を開催するなど連携を深めていた。また、山形市役所には「六華会」があり、同様活発に活動していた。この他、山形銀行はじめ様々な企業に数多くの同窓生がおり、夫々懇親を深めていた。

馬場氏の山形訪問の直後、8月10日付で芦野真一郎氏（S46年法卒・初代事務局長）と私に、柳本会長・馬場事務局長の連名で支部設立への協力依頼があった。当時、県庁同窓会の会長は芦野氏、前会長が私で、県庁関係の代表として依頼されたと感じた。

突然のことで驚いたが、以前から地元同窓生の「恒常的な連携の場」を造りたいと考えていただけに、支部設立は予想外の朗報であり、大いに協力したい旨馬場氏に連絡を取った。最初の話し合いは8月26日、山形駅前通り角のホテルキャッスル、広々として開放感のある1F喫茶室だった。

馬場氏、川村理事、芦野氏、私の4人が顔を合わせ懇談した。実は私は、前日の東北支部総会・懇親会で、馬場氏・川村氏と僅かながら挨拶は終えていた。

同窓生名簿の把握など事務的事柄は本部事務局が全面的に支援するとのことで、芦野氏と私は組織体制整備のため、同窓生が多くいる職場「山形市役所・山形銀行・山形新聞・山形放送等」の同窓生に声掛けする旨約束した。

その後、夫々に「設立について協議したい旨」話した処、皆さん全員その場で大いに賛成との意向であった。

具体的な進め方については、10月13日山形駅前の居酒屋で杯を交わしながら行った。話は直ぐにまとまり、夫々が発起人になり翌年設立しようとなった。また、本部との調整など準備事務は、芦野氏を中心に私も相談に乗りながら行うこととした。この間、地元会員は勿論のこと、本部・各支部の皆さんに大変お世話になった。

やがて総会の日時も決まり、各同窓生へ支部設立の案内を行った。基本的には、葉書による郵送。また、職場の同窓会を通じ案内した者も多い。夫々の職場の皆さんが、大いに頑張ってくれた。街で偶然会った同窓生にも声掛けした。

そして第1回総会開催に至った。会場は山形駅隣接のホテルメトロポリタン、出席者は70名。本部からは、柳本会長、馬場事務局長、大学からは加藤法学部長が出席。地元からは、顧問の市川昭男山形市長（S42経卒）はじめ米沢市・長井市など各地から多くの方々が出席された。特に若い人や女性の参加が目立ち、明るく賑やかな会となった。初代支部長は小山信夫氏（S39法卒・元県庁）。翌年、第2代支部長に斎野洋氏（S42経卒・元山形放送）が就任、2期ご尽力頂いた。

最後に本支部の特徴（強み）を紹介致しますと、一つは、職場を軸とする連携がしっかりし全体がまとまっていること。もう一つは、若い人や女性の方々が気軽に大勢参加してくれることです。今後とも皆さんと共に、愉快で楽しい会にしたいと思っています。

第7回 山形県支部総会・懇親会

事務局長 井上幸弘（S49年・人文卒）

第7回総会は、8月31日（土）メトロポリタン山形で開催されました。

出席者は45名（うち来賓は3名）。昨年の54名よりは減少しましたが、昨年と比べて人文・法・経済以外の学部からの参加者が増えました。またいつも総会の前に行っておりました大学キャリアセンター主催の就職懇談会は、別の日に開催することになりました。

参加者の最高齢は、田中晶英さん（S29年）。若手の出席としては、今年の3月卒業したばかりの西山隼人さん・牧野宏哉さんを始め、平成10年以降の卒業生が13名（うち女性2名）と若い同窓生が多数参加しました。

総会では、志賀康芳会長の挨拶の後、田村秀法学部長から大学の現状や今後の抱負、

小柴昭英人文・法・経済学部同窓会顧問から、同窓会の現状や支部交流の大切さなどそれぞれご祝辞を頂きました。

議事では平成 24 年度事業報告・決算報告・監査報告、平成 25 年度事業計画・予算案が上程され、議決されました。さらに、平成 25 年 8 月から平成 27 年 8 月までの役員改選が提案され、引き続き志賀会長ほかを選任されました。

続いて懇親会となり、山形市長市川昭男山形県支部顧問から同窓会への期待と激励を込めた挨拶の後、乾杯の音頭を取られ懇談が始まりました。

桑原興一人文・法・経済学部同窓会首都圏副支部長を皮きりにスピーチをしていただきました。桑原さんは首都圏支部の活動にふれるとともに、若い人がたくさん参加している山形県支部総会への参加を楽しみに来たとお話されました。

次に、平成 25 年度工学部を卒業したばかりの山形市役所の西山隼人さんが、緊張しながらも仕事に取り組んでいる近況を話されました。今回初めて医学部卒業の小関清夫さんが参加されました。医学部の卒業生も県内にたくさんおり、今後とも是非交流を深めたいとお話がありました。また山形県庁からは、農学部卒業の佐藤恒治さんが、第 1 回以来久しぶりに参加したことをお話されました。東北電力からは現在福島市在住の蓑田伸さんが近況など話され、あわせて電気料の値上げについてご理解を得たい旨をお話されました。

宴も盛り上がり、六華寮で過ごした仲間たちによる「頌春の歌」がにぎやかに歌われたのに引き続き、志賀会長と見立正之副会長によって、昭和 39 年「新潟国体の歌」の披露がありました。この歌は、今でも新潟市内で CD が販売されているものです。懇親会の終りには志賀会長と小柴顧問のリードで「四季の新潟」を全員で合唱。続けて志賀会長、佐藤恒治さんによる新潟大学学生歌を歌い、最後に蘆野眞一郎副会長の万歳三唱で会を終了しました。

今後とも山形県支部の同窓会では、学部に関係なく「新潟大学」の卒業生が数多く集う楽しい会にしていきたいと考えております。忙しい中参加頂いた大勢の同窓生の皆様、理事・幹事の皆様、ありがとうございました。





平成25年度新潟大学同窓会山形県支部総会 平成25年8月31日 於ホテルメトロポリタン山形

新潟国体の歌

一、弥彦の山から輝きくだる

燃(も) えたつ聖火に気もはずむ

陽炎(かげろう) けりあげ走れよ跳べよ

伸びゆく力(ちから) ためすのだ

越路の大地に勇まし諭(たの)し

若人のうたげぞ新潟国体 新潟国体

二、豊(ゆたか)を流れの信濃は光り

眺めるわれらの身はおどる

明日(あした)を目ざして勝ちぬき進み

きたえし技(わざ)をしめすのだ

越路の大地に勇まし諭し

若人のうたげぞ新潟国体 新潟国体

三、荒海はるかに佐渡へとつづき

交(か) わした誓いに魚がたぎる

青空仰いで歓呼に答え

若さと熱できそうのだ

越路の大地に勇まし諭し

若人のうたげぞ新潟国体 新潟国体

同窓会設立 60 周年記念式典・懇親会

事務局長 井上幸弘（S49 年・人文卒）

7 月 6 日に行われた同窓会設立 60 周年記念式典・懇親会には、山形県支部から 18 名が参加しました。20 名という同窓会本部から示された参加目標には及びませんでした。山形県庁、市役所、山形銀行を中心に、各職場で積極的に働きかけた成果が表れました。参加にあたっては、県外からの参加者に助成金 5,000 円を支給するという、同窓会本部の支援策は、大いに役立ちました。本部の配慮に深く感謝申し上げます



記念式典に続いて、祝賀会・懇親会が行われました。開演の辞のあと、祝いの能の舞「羽衣」が披露され、山形県支部志賀会長の乾杯の音頭でにぎやかな祝賀会が始まりました。卒業年を中心に席が決められておりました。私の席は昭和 48 年、49 年の卒業生が全部で 10 人。初めてお目にかかる人ばかりでしたが、みなさん定年を迎えられ、ほとんどの方が第二の職場で新しい仕事に従事されておりました。名刺を交換しながら、学生時代の話で大いにもりあがりました。



それにしても 49 年卒業の参加者の中で、人文卒業生が私一人というのはさびしい限りでした。山形県支部の集まりでも、学校の先生などたくさん周りに同窓生がいるにもかかわらず、人文の卒業生はなかなか参加してくれません。もっとも私も同窓会の仕事に関わっていなかったら、はたしてこの場に参加していたかと、自問自答しておりましたが。

総会の翌日は、それぞれ思い出の場所を訪ねて大学（五十嵐）に行ったり、すぐに帰ったりと、各自の行動をとりました。私は志賀会長、見立副会長、小関監事とともに事前には申し込んでいなかったオプショナルツアーに参加しました。昨年開催された理事会の折り、久しぶりで私の下宿先を探したのですがわかりませんでした。その時も自家用車であちこち回りましたが、車から眺めた程度でした。今回のツアーに参加して、新潟県庁、ビッグスワン、新潟西海岸、

護国神社、旧西大畑校舎跡、みなとぴあ（旧税関）、トキメッセなどを回りながら、変わってしまったもの、変わらないもの両方をこの目でみることができ有意義でした。護国神社には、横田めぐみさんがこの付近で拉致された旨の看板があり、36年前今も解



決を見ていない拉致事件が起こったことを痛感しました。一刻も早い解決を願いました。

トキメッセの展望台からは、学生時代を過ごした6年間がなつかしく思いだされ、今度は家族と訪れる機会を作りたいものだと思います。

新潟大学人文・法・経済学部同窓会設立60周年記念事業 式次第

平成25年7月6日(土)新潟東ホテル

1 講演会 司会 瀬賀孝子 (S50年・法卒)

13:30~14:10

創作落語「良寛ものがたり」いのちの落語家

樋口 強 (S50年・法卒)

14:20~15:10

パネルディスカッション「今に生きる良寛」

2 記念式典 司会 渡邊信子 (S56年・法卒)

15:30

開会の辞

物故者への黙禱

学生歌斉唱

式辞

祝辞

大学基金寄付に対する感謝状贈呈

表彰式

同窓会活動功労者への感謝状と記念品贈呈

受賞者の謝辞

閉会の辞

記念写真 3班に分けて行う (16:20~16:50)

3 祝賀会、懇親会

司会 廣島利邦 (S47年・法卒)

17:00~

開演の辞

** 祝いの能の舞「羽衣」披露 **

乾杯の音頭 志賀康芳・山形県支部長

東日本大震災の復興復旧についての現状報告

山口荘一郎 (H11年・経卒) 石巻市議会議員

挨拶

余興 PDFによる大学の今昔

クラブ、同期会の発表

「四季の新潟」「六花寮歌」大合唱

「風評被害に抗して」会津支部・小野寺事務局長より

会津漆器、地元産なめこ、喜多方ラーメンの展示

販売

閉宴の辞

18:30

新潟大学人文・法・経同窓会設立60周年記念行事に参加して

東海林憲彦（H6年・法卒）

このたび、人文・法・経同窓会設立60周年記念行事に、山形県支部の皆様、同じ職場の先輩後輩達とともに参加させていただきました。

私は大学を卒業した後の数年間は、年に数回新潟を訪れていたのですが、時が経つにつれ次第に足が遠のいておりました。今回お誘いをいただき、せっかくの機会でしたので妻と一緒に（妻は同窓生ではなく、今回が初めての新潟旅行）懐かしの新潟に出かけることにしました。

参加した行事については他稿にお譲りするとして、1泊2日の滞在について記述させていただきます。

新潟には妻と2人で自家用車で行きました。正午近くに新潟に到着しましたが、新発田市にさしかかったあたりから猛烈に激しい雨に遭いました。

記念行事が始まる前に、私が学生当時お世話になった先生のお宅を訪問する約束をしておりました。妻と一緒に会いに行くのは今回が初めてでしたので大歓迎して下さい、昔話に花が咲いて大変楽しい時間を過ごしました。

その後、古町のホテルにチェックインし、会場の新潟東映ホテルには歩いて行きました。途中、学生時代とほぼ変わらない町並みを眺めながら萬代橋を渡ると、やたらと目を惹く高層ビルが目の前に現れ、しばし見とれてしまいました。確かその場所にはミナミプラザがあったはずですが、確認してみると今年4月にグランドオープンした新潟日報のビルと分かりました。

しかし、それ以外には万代シティも昔ながらの風情を残しており、懐かしい思いでいっぱいになりました。

行事が終わった後妻と合流し、万代シティをぶらぶらと散策、その後古町で食事をして1日目の行程は終わりました。

2日目はドライブをしようと決めていましたが、この日も雨が降ったりやんだりでありにくの天気でした。まずは新潟市役所すぐ近くの白山神社に行きました。神社とそれに隣接する白山公園は行ってみると敷地内に見所が多く、くまなく見て回る時間がなかったのもまた訪問しようと思っています。

その後、学生時代に二輪車でよく走った国道402号、越後七浦シーサイドラインを走り、弥彦山を目指しました。シーサイドラインの景観は久しぶりに見ましたが、見応えのあるスポットが多く、快適なドライブを楽しみました。また、彌彦神社にも立ち寄りました。休日ということもあって人出が多く賑やかでした。広い境内には日本鶏の鶏舎や鹿苑があり、思いがけず長居してしまいました。

気が付くとすでにお昼を過ぎていたので、食事をするため少し足を延ばして寺泊魚の市場通りへ向かうことにしました。カーナビに寺泊をセットすると、目的地が「長岡市寺泊」と表示されました。長岡市が日本海に面するようになっていたことに時代の流れを感じました。

寺泊の魚市場は、沢山の観光バスや大勢の観光客で賑わっていました。魚を入れた発泡スチロール箱を観光バスのトランクに詰め込む人たちの姿があちこちで見られ、ここでは昔と変わらない風景が見られ、またもや懐かしい思いに浸りました。その後新潟大学の周辺を車窓から眺め、帰途へつきました。

以上駆け足での紹介でしたが、今回の記念行事のおかげで新潟への旅行ができ、大変感謝しております。今後とも、機会を作って新潟に足を運び、新潟の街や母校の姿を見に行きたいと思っております。



「そうだ！同窓会、行こう！」

青木奈央子（H10年・人文卒）

「同窓会に入らねが」と、（山形市役所）同窓会顧問の井上さんより誘っていただいた時には、即答で「お願いします！」と答えた私ですが・・・これまで、大学の同窓会と言えば・・・“おじさま”なイメージで、自分が参加することはあまり想像していませんでした。たいへん失礼しました・・・すみません。

実際、同窓会に参加してみて、先に述べたようなイメージは、一変しました。訂正の上、謝罪いたします。若い会員がたくさんいました。女子がいました。なにより、“おじさま”たちは（すみません）おもしろい話題をたくさんもっていらっしゃるエネルギーな方ばかりで、圧倒されました。おもしろい飲み会でした。誘ってくださった井上顧問には、感謝、感謝でございます。

さて、遅ればせながら、私は、平成10年度、人文学部行動科学課程卒業の、青木奈央子と申します。心理学を学んできましたので、人の心が読めます（冗談です）。一般財団法人山形市都市振興公社に勤務しております。当公社は、山形市役所内に事務所を構えているものの、別組織と言うことで、同窓会の存在は知っていましたが、入れないものと思ってまいりました。それを、このたび入会させていただき、見える世界がぱあーっと広がりました。エレベーターであいさつできる方が格段に増えまし

た。同窓会には、大学在学中から知り合いだった方は、ひとりもいらっしゃいませんでしたし、高校の同級生はおりましたが、今のように仲良くなったのは、同窓会で再会できたおかげです。知り合いが増えるとは、なんと心強いことでしょう。

最近の私は、仕事で、困ったとき、情報がほしいとき、誰に相談したらよいか迷ったとき、まず、同窓会の名簿を開きます。初対面ではなかなか質問しづらいことでも、顔見知りであることの安心感から、頼りにさせてもらっています。みなさま、ありがとうございます。

社会人になって10年余り。尖っていた若いころを経て（笑）私も“おばさま”でございます。先輩方のアドバイスがどんなにありがたいことか、実感する年になりました。後輩からのアドバイスを聞いたり、新鮮な感覚に触れ、気持ちが新たになりました。また、多様な業種の方との交流も有意義です。ぜひ“おじさま”“おばさま”になる前からの参加をお勧めします。山形支部をますます、盛り上げていきましょう。

最後に、私事ながら、新年に2人目の子どもを産んでまいります。それまで、しばらく、ごきげんよう。次の寄稿者として、山形市役所の遠藤真知子さんにリレーします。